

今より一步、
心地よい暮らしを考える。

7町エリア限定配布

ニ
ュ
ー
ス
Neutral
News
ニ
ュ
ー
ド
ラ
ル

No.07

ヨットと海への思いから始まった、 環境を考えた取り組み

となりの

ニ
ュ
ー
ト
ラ
ル

となりのニュートラルは、近所のあの人が取り組んでいる、暮らしを豊かに心地よくし、環境にもやさしい工夫をお伝えします。今回お話を聞き出したのは、パブレストラン「DENVER」を運営する、本間善和さん。本間さんは、ヨットを通じて気づきをきっかけに、CO2フリー電気への切り替えを決断されました。

海をきれいにしたい

本間さんが環境について考え始めたきっかけは、趣味のヨットでした。「ヨットが好きで、三河湾へよくバーベキューに行くんです」と語る本間さん。海で遊ぶ中で、「自分たちが出したゴミはもちろんのこと、海岸に落ちているゴミも拾って帰るようになっています」と、海に対してできることを続けてこられました。

「ヨットは風の力で進む。だけど、エンジンも使うから海を汚してしまう」と本間さん。海が好きなが海を汚すという矛盾に気がつき、少しでも海の環境保全にすることができるのではないかと考えるようになったそうです。

岡崎市からの電話が後押しに

そんな中、岡崎市からCO2フリー電気についての案内の電話がありました。CO2フリー電気は、再生可能エネルギー由来の電力を使うことで、実質的なCO2の排出量をゼロにすることが出来ます。「自分ができることなら、少しでも自然環境にやさしい選択をしたい」と、本間さんは即座に導入を決意。なにかアクションを起こそうと思っていたタイミングでの連絡だったそうです。

切り替えの手続きは想像以上に簡単でし



た。「市役所の方が説明に来てくれて、書類を一枚書いただけ」と本間さん。その後は、電力会社からの連絡を待つだけ。「なみのトラブルもありませんでした」とスムーズに切り替えが完了したといいます。

料金はほぼ変わらず、不安もなし

多くの人が気になる料金面について、本間さんは「少し上がったけれど、そんなの全然問題ない」と話します。環境への配慮を考えれば、わずかな金額の増加は気にならないとのこと。なお、家庭での切り替えの場合も、料金の変動幅は小さく、契約内容によっては安くなることもあり、負担は小さいといわれています。

また、災害時の対応についても不安はなかったそうです。停電があった場合の対応を質問した際も、通常の電力会社と同様に復旧対応がされると市から回答を受け、安心感を持てたそうです。

気候変動を肌で感じて

本間さんは気候変動についても実感しています。「夏の異常な暑さや冬の暖かさ、異様な降雨や逆に水不足。気候変動は絶対起こっています」と話す本間さん。「みんなも感じていると思う」と、誰もが気づいているはずの変化に対して、行動を起こすことの大切さを語ります。こうした気候変動の進行を少しでも抑えるために、私たちひとりひとりがCO2排出を減らす

選択をすることが、環境保全につながっていくのかもしれない。

電気を切り替えたことによる変化を、日常生活の中では感じないといいます。特別なことではなく、当たり前の選択として環境に配慮した電気を使うことが、生活の一部になっているそうです。

次世代のために、今できること

本間さんは、環境への取り組みについて「深く考えて行動したわけではない」といいますが、海での清掃活動を続けたことが環境への意識を育み、CO2フリー電気を選択するという行動につながっています。

「海で遊ばせてもらっているから、海をきれいにしたい」というシンプルな想い。それは、自分が楽しんでいる自然を守り、次の世代にも残していきたいという願いの表れです。

50年にわたってこの地域で店を営んできた本間さん。「いいものが残ってほしい」という言葉からは、自然に限らず、街や文化を大切にする姿勢が伝わってきました。ヨットと海への思いから始まった環境への取り組み。本間さんの姿は、日々の小さな行動の積み重ねが、より良い未来につながることを教えてくれます。「何かしたいと思っていた」という想いを、具体的な行動に変えていく。そんな一歩を踏み出すヒントがここにありました。



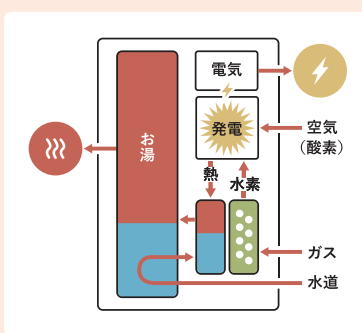
パブレストラン「DENVER」本間善和さん

エネファーム&エコキュートで、家計も環境ももっと豊かに

こんにちは！岡崎市ゼロカーボンシティ推進課です。

家庭で消費されるエネルギーの約3分の1は「給湯」といわれています。お湯の作り方を見直すことは、家計の節約とゼロカーボンシティ実現への大きな一歩です。今回は、クリーンで効率的な2つの給湯システムをご紹介します。

1 エネファーム



家で電気とお湯を同時につくる

エネファームは、ガスから取り出した「水素」と空気中の「酸素」を化学反応させて「発電」し、その時に出る熱を捨てずに「お湯」として利用する「家庭用燃料電池」です。

【家計へのメリット】

電気代を大幅カット…家で使う電気の約4割〜6割を自給できるため、電力会社からの購入量を減らせます。

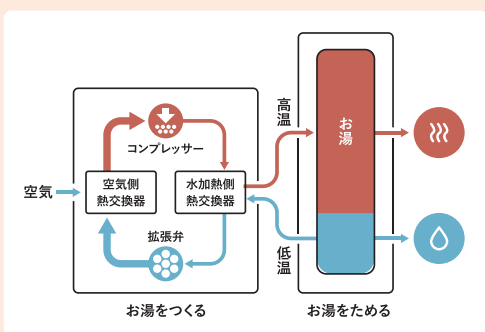
停電時の安心…停電時でも発電を継続し、スマホ充電や照明、給湯が可能です。

【環境へのメリット】

エネルギーロスを最小限に…発電時の熱をそのままお湯に変えるため、エネルギー利用効率が非常に高く、CO₂排出量を年間約1トン（スキの木約70本分）削減できます。

街全体を支える「VPP（仮想発電所）」…岡崎市では、市全体の電力需要に応じて各家庭のエネファームをネットワークで一括制御（群制御）する取り組みをしています。岡崎市全体の電気需要が高まる時間帯に発電量を増やし、逆に太陽光発電で電気が余る日中に出力を自動で抑えることで、あなたの家が「街の小さな発電所」となり、地域全体の再生可能エネルギー利用を支えます。

2 エコキュート



空気の熱でお湯を沸かす

エコキュートは、エアコンと同じ「ヒートポンプ技術」を使い、外気の熱を利用してお湯を沸かします。

用してお湯を沸かします。

【家計へのメリット】

圧倒的な省エネ性…投入する電気エネルギー「100」に対して、空気中の熱を効率よく取り込むことで「300」以上の熱エネルギーを生み出します。

太陽光との連携で「給湯代0円」へ…「昼間にお湯を沸かす」新常識。ご自宅の太陽光パネルで発電した余剰電力を活用すれば、実質タダでお湯を沸かすことができ、電気代の削減効果が最大化します。

【環境へのメリット】

再生可能エネルギーの有効活用…自然の空気熱を利用するため、従来の燃焼式給湯器に比べCO₂排出量を大幅に抑えられます。

ピークシフトに貢献…太陽光発電が余る昼間に稼働させることで、電力網への負荷を減らし、化石燃料による火力発電の抑制に繋がります。

今がチャンス！
炭素先行地域の補助金を賢く使おう

家計を助け、環境を守る最新設備。岡崎市では現在、炭素先行地域づくり事業として、設置費用の最大3分の2をカバーする強力な補助金制度を実施中です。

補助額は、エネファームなら最大40万円、エコキュートなら最大40万円。初期費用を大幅に抑えて、スマートな暮らしを始める絶好のタイミングです。この機会をどうぞお見逃しなく！

まちなかニューtral

地域の廃材から生まれる問いと創造力を育む造形教室

ここでは、まちなかにあるちよつと環境を考えた身近な取り組みをご紹介します。今回は、能見通にある「こども造形教室 岡崎ぎやざ」。

岡崎ぎやざは、「その人らしく表現できる環境づくり」をコンセプトに、工作を通して子どもたちの生きる力を育てています。工作に使う材料のほとんどは、市内の工場や会社から出た端材、使われなくなった部品など、本来なら捨てられてしまう「廃材」です。

廃材を使うきっかけは、発起人のひとりである大島ユカさんが繊維商社で働いていた際、廃棄処分される大量の衣料品を目の当たりにし、「廃材をもう一度使えないか」と考えたことでした。

廃材は色も形も大きさもバラバラで正解がありません。だからこそ「これを使ってなにをつくるのか？」という問いが自然と生まれ、創造力が膨らみます。本紙の印刷を担当している「永田印刷所」からは残紙を、産廃処理業者「毎日商会」からはウレタンなどが提供され、子どもたちが表現活動に取り組み環境が支えられています。

「使い道がない」と思われているものの見方を変えて新しい価値を生み出す。毎年3月の「超ぎやざ展」では子どもたちの作品をまちなかの人に見に訪れ、廃材を活用した工作が地域内の資源と人の循環をつくっています。



ニュートラル
ニュース
とは

地域情報紙「ニュートラルニュース」は、QURUWA 7町エリア（亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目）で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。そして、実はそれが環境にやさしい取り組みで、その輪を地域に少しずつ広げることを目指します。

バックナンバーはこちら！



発行元 ニュートラルニュース実行委員会
岡崎市ゼロカーボンシティ推進課
発行月 2026年4月
印刷 合資会社永田印刷所
企画・編集 Micro Hotel ANGLE（合同会社シテン）
ライティング Micro Hotel ANGLE（合同会社シテン）
デザイン 岡田偉大（ケルン）